

平成24年度・篠原地区社会福祉協議会・研修会原稿

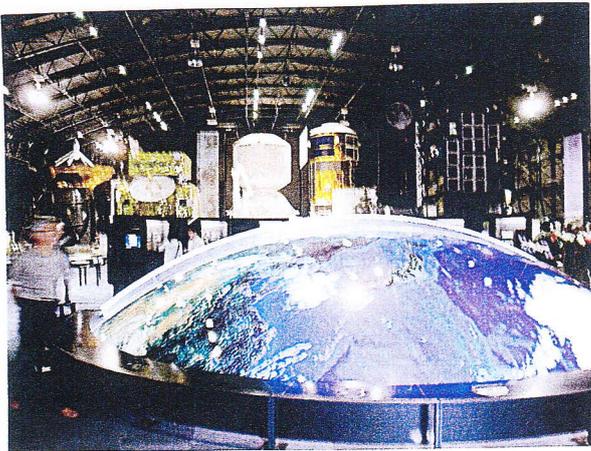
本年度の研修会は、東日本大地震・大津波にちなみ「防災科学技術研究所」関係の施設、更に「筑波宇宙センター」を見学しました。また大津波でひとかたもなく建物の鉄骨だけが残りガランドになった「那珂湊・漁港」の復興を視察しました。◆菊名池・篠原地区会館前を朝8時に出発し北町郵便局前からと全員36名の参加がありました。観光バスは、首都高を經由し常磐道へ最初のSA守谷で休憩し桜土浦ICを降りて、最初の見学場所のJAXA「筑波宇宙センター」に予定より早めに到着。玄関前の実物大のロケットの前で全員、先ずは記念撮影をしました。

◆「スペースドームフロア」の見学に先立ちビデオで説明を受けまし



た。この宇宙センターは、1972年に設立されて以来、筑波宇宙センターでは宇宙開発の最先端分野の研究・開発・試験が行われております。日本の宇宙開発の中核センターとして、多彩な活動を行っております。広さは、東京ドームの約12個分。H-I I Aロケットのながさは、JAXA総合開発推進ビルの高さと同じ53メートル。大空の国際宇宙ステーションは、上空約400Kmにある、晴れた日には肉眼で見ることができる。

と解説され更に、種子島でのロケット発射音をビデオで映像とその様相を耳にし雷のゴロゴロの音をゴウゴウと連続した様な、不気味な轟音でした。確かに心臓には良くないようです。そしてスペースドームの見学です。最初に、人工衛星・いぶき・だいち・きぼう・こうのとり等のさまざまな種類や形の替わった人工衛星の役割の説明を聞きながら、**日本実験棟「きぼう」**の宇宙船内にはいり宇宙飛行士の気分を味あいました。◆ここ筑波宇宙センターでは、総勢50名の運用管制員が24時間体制で宇宙飛行士との交信やNASAをはじめとする各国との連絡



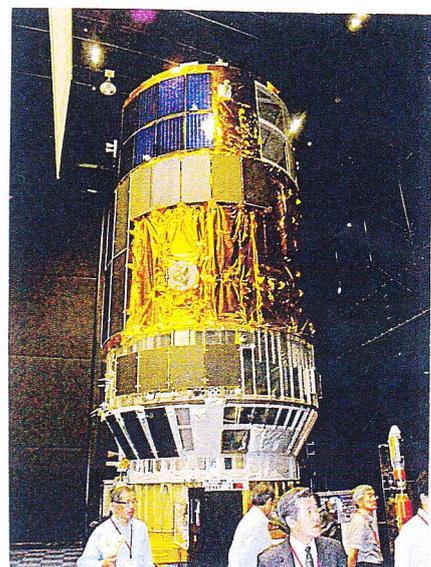
を行っております。同時に、国際宇宙ステーションに日本は「きぼう」日本実験棟に搭載されている機器や実験装置の監視など、様々な作業をリアルタイムで行っております。

船外活動用の宇宙服の重さは、なんと約120Kg以上とのことです。宇宙船の外は空気もなく宇宙放射線が飛び交う厳しい環境なので、船外活動を行うときは14層からなる宇宙服を着ます。背中には酸素やバッテリーなどの生命維持装置が付いていて最長8時間活動ができるようになっています。◆さて、7月15日にはソユーズ宇宙船がロケットにて打ち上げられ、日本人・星出さんが2度目の国際宇宙



宇宙センターへ向かいました。17日には無事に国際宇宙センター・「きぼう」に到着しました。そして21日には種子島から無人補給船「こうのとり」が打ち上げられ「こうのとり」とのドッキングを星出さんが成功させました。この時も筑波宇宙センターと交信をしております。

◆この「**こうのとり**」についても私達は、筑波宇宙センターのスペースドームでお話を聞いたこととて宇宙ロケット打ち上げに関心をもっていました。日本の「**こうのとり**」は、H-IIBロケットにより打ち上げられる無人宇宙船で、食糧・衣類・各種実験装置など最大6トンの補給物資を国際宇宙ステーションに届け、補給が済むと用途を終えた実験機器や使用後の衣類などを積み込み、大気圏に再突入して燃やします。日本の開発制作技術が期待されております。この「**こうのとり**」の大きさは、直径約4m・全長10m、大型観光バスが収まる大きさです。



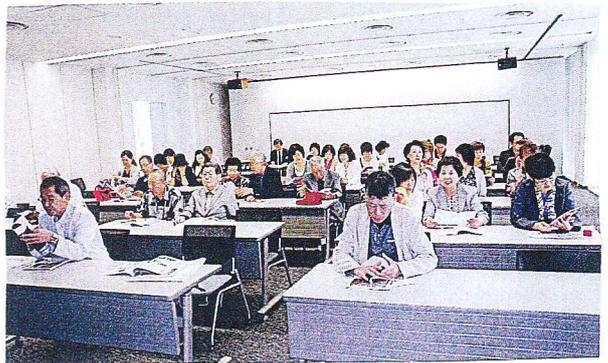
その他、各種電子機器が搭載されております。食糧と言えば宇宙食ですが、ここの売店で、バニラ・いちご味のアイスクリーム・プリン・カレー等の宇宙食をお土産に購入した方々は、お味は如何でしたか。その他、ロケットの燃料は、液体窒素・液体酸素などで宇宙へ打ち上げられる。実物大の

ロケットの種類と性能についてもいろいろと学びました。めったに聞けない宇宙科学の知識を身につけました。

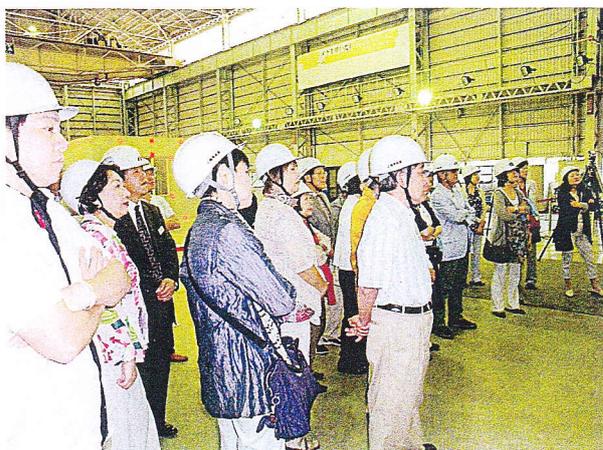
◆バスに乗り込み昼食・すぎのや本陣へ美味しいお昼を食べて、筑波山へロープウェイで山頂へ少し霧がかかっているが関東平野が田園風景が素晴らしかった。早めにホテル青木屋へ到着しお風呂に入り、晴れた日には、天空風呂から筑波の田園風景や新名所のスカイツリーも眺望できるとか。楽しい宴会で、カラオケありで懇親会も無事終わりました。



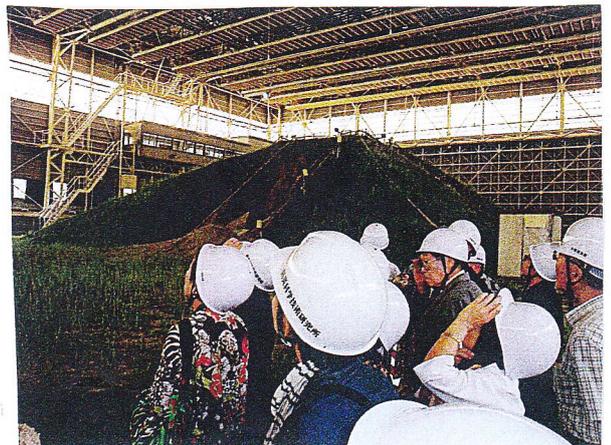
◆翌日・25日(月)は、**防災科学技術研究所・NIED**の施設研修です。文部科学省所管の独立行政法人で地震・火山・風水害・積雪等、自然災害の防災科学技術の研究所です。すべての人々が安全で平和に暮らせる社会を創ることは、人類共通の願いです。そのような暮らしを脅かす災害から人名を守り災害に強い社会を実現するための科学技術を発展させることを理念としています。そして、地震・火山・気象観測網など、豪雨と地震による複合土砂災害の危険度について研究をしています。また災害リスク情報の利活用の研究、対策を検討し情報システムの開発に日本全国の地震観測網についてもビデオ鑑賞をしました。



◆そして、**耐震実験施設**、サイズ14, 5m×15mの大型テーブルを利用しての大規模な耐震実験を実施できる世界第二位の大きさの施設と**大型降雨実験施設**、世界最大の規模・能力を有する散水装置、毎時15～200mmの雨を降らせることができます。この施設を使用して、山崩れ、土砂流、土壌浸食や都市化に伴う洪水災害の解明などの研究を行っています。大きな大きなドームのなかにこの様な大規模な施設が設置されています。この大規模な施設内に入り木造住宅の耐震度の研究の実



験と、大雨による山崩れの実験を目の当たりにて見学しました。滅多にみれない素晴らしい



い施設研修会になりました。◆一行はバスに乗り大洗の那珂湊に、途中、新鮮な海鮮料理を美味しくいただきました。そしてあの東日本大震災で大津波にあい骨組みだけが残る冷凍機器など全部津波にさらわれガラン



ドになった市場が復興し以前の様な活気に満ちた漁業市場になっていました。みなさん思い思いの新鮮なお魚を買い求めていました。一日も早く東日本・東北が復興します様、お祈りいたします。水戸大洗ICから守谷ICを降りてアサヒビール茨城工場へ、ゆっくりとビールの出来上がるまでの行程の工場見学も終えて、喉も渴いた時間

帯でしたので、出来たてのビールの試飲は、最高に美味しく、ビールのつぎ方も飲み方を教えてもらいました。生ビールも・瓶ビールも・缶ビールも同じ味のビールだと聞き、雰囲気でも味もかわることを教わりました。◆再び観光バスに乗り込み（4時35分）帰路につきました。首都高速も順調に流れも良く横浜へ、しかし三ツ沢ICの出口で渋滞にぶっかり予定よりかなり遅れて菊名池オクト前に帰宅しました。



◆この度の研修会は、宇宙科学の知識、自然災害の知識、いろいろな人工衛星、耐震実験装置、風水害実験装置などの有意義な施設研修会となりました。どれ一つも私達の日常生活に関連がありいろいろと役立つていることを痛感しました。ご参加ご苦労様でした。

